



第 17 回臨時総会

日 時：平成 24 年 7 月 12 日(木) 12:30～14:00

場 所：八王子エルシー

出席者：67 名 欠席者 4 名 出席率 94.4%

(会員総数 71 名休会 0 名)

1. 開会 飯田例会委員長の司会で開会

本日の資料の確認と出席状況報告があった。お客様として八王子南ロータリークラブから 3 名(後程紹介)出席されているとの報告があった。

2. 挨拶 吉田会長



東京八王子プロバスクラブが発足して 16 年を経過し、会員の平均年齢も 74.8 歳となりました。これにより従来の職業による違

いの他、世代の違い等、会員が一層多様化してきました。この様な環境の中で、全会員がクラブライフを通じて青春にチャレンジし、発揮する場を盛り上げたいと思います。クラブ活動の目的は、会員相互の親睦を深め、会員による地域への奉仕活動、クラブ内での奉仕活動を行い、会員が前向きに過ごすための自己研鑽の場を充実する事にあります。

会の運営は、先輩方の築かれた基盤の上に立ち、無理のない形で円滑に進めたい。その上に各委員の思いを加えて頂き、会員全員でクラブライフを楽しみたい。

例会活動は、楽しく、会員同士の親睦を一層深められるようにしたい。その為に例会に変化を付け、時間配分・卓話・配席に工夫をして行きたい。

情報活動では例会記事の簡素化、投稿記事の充実を図り、読まれる、親しみやすい「プロバスだ

より」を目指したい。

会員活動では、クラブの活性化のため、会員平均年齢以下の多彩な方を勧誘し、若返りを図りたい。具体的には会員数を 70 名台に維持し、入会后 10 年間は活発な会員活動を行なえる方を勧誘したい。

研修活動では、卓話の活性化や、魅力的なテーマを持つ研修旅行、出前講座リストの活用を図りながら、会員が楽しく有益と感じられる活動を展開したい。

学習サロンでは、特別講話の魅力を高める外部講師の検討や、出前講座リストの活用で、更に魅力あるテーマを準備し活性化をはかりたい。

交流では近隣の多摩プロバスクラブ、日野プロバスクラブと、出前講座の実施、イベントへの相互招聘等による交流をすすめたい。

宇宙の学校プロジェクトでは、事業を安定軌道に乗せ、更に本活動がクラブの中にとけ込めるようにしたい。

3. 議長選出

恒例により会長が議長を務めることとなり、議長が会員総数 71 名の内、出席会員は 67 名であり、本総会が有効に成立したことを宣言した。

4. 書記 1 名、議事録署名人 2 名選出

書記高取会員、議事録署名人田中美代子会員、岩島会員が決定された。

5. 議事

第 I 号議案 (2011～2012 年度一般会計決算報告)、第 II 号議案 (2011～2012 年度活動準備金特別会計報告)、第 III 号議案 (2011～2012 年度第 16 回生涯学習サロン特別会計決算報告) が永井旧幹事より報告された。又上記 3 議案一括監査が増田会員からなされ、適正である旨が報告された後、上記 3 議案が承認された。

第Ⅳ号議案（2012～2013年度一般会計予算案）、
第Ⅴ号議案（2012～2013年度活動準備金特別会
計予算案）が塩澤幹事より提案され、承認された。

6. 議長退任

7. 閉会

第 201 回例会

日 時：平成 24 年 7 月 12 日（木） 14:00～16:00

場 所：八王子エルシー

出席者：67 名 欠席者 4 名 出席率 94.4%

（会員総数 71 名休会 0 名）

1. ハッピーコイン披露

吉田会長より 18 件のハッピーコイン（後掲）
の紹介があった。

2. 挨拶 吉田会長

先程総会で挨拶したので省略する。今年度は
基本的に楽しくやりたいので宜しく。

3. お客様の紹介とご挨拶

本日のお客様は、八王子南ロータリークラブ
（RC）副会長の清水宣彦様、クラブ管理運営委
員長の梶原正統様、奉仕プロジェクト委員長の廣
瀬武彦様の 3 人で、お祝い金を頂戴しています。



清水様の挨拶では、
本日本来ならば市川
会長がお伺いすべき
ですが、ロータリーク
ラブの全体会議があ
る為欠席しました。

私とプロバスクラブ（PC）の関係は、暁町に
土地を求めた際や、建物を建てた時、あるいは病
院で八王子 PC の方々のお世話になっています。

市川年度は「心」をテーマとしている。知識、
感情、思いやり、感性、望み等が「心」という言
葉に含まれている。自分としては「思いやり」、
つまり他人を思いやる心が、行動になり、奉仕に
つながると思っている。昨年の震災では物品だけ
でなく、現地へ行くという行動と、現地への思い
やりで 1 年間進めたい。

RC と PC との関係を相互互惠（戦略的互惠）

関係とし、RC からの情報と PC からの経験を互
いに深化させ、Win-Win の関係にして行きたい。

追加発言で、RC の例会に出席する場合、ビジ
ターフィー 3000 円を支払えば自由に参加でき、
各種の講演が聞ける。但し 5 人以上になる場合は、
事前連絡が必要との事。

梶原様の挨拶では、今年度の国際ロータリーク
ラブの会長に、八潮ロータリークラブの田中さん
が就任したとの情報を得た。

廣瀬様の挨拶では、宇宙の学校を桑志高校でも
行うという事をお聞きした。どんどん発展してゆ
くことは喜ばしい。応援してゆく。

4. バースデーカード贈呈

今年も池田会員手作りのバースデーカードが、
吉田会長より浅川、岩島、澤渡、高取、浜野各会
員 4 名に手渡された。

5. 幹事報告 塩澤幹事



6 月後半に各委員会
の打ち合わせと、懇親
会が行われた。

今年度より名札の
裏・表どちらでも見え
るように工夫をした。

ハッピーコインは短く、分かり易い文字で記入
してください。

チラシで、公的なものの配布は問題ないが、出
来るだけ早目に（理事会の時に配布）提出をお願
いしたい。私的なチラシは受付に置いておきます
ので自由に持参してください。

7 月 11 日（水）八王子南 RC の例会に吉田会
長を含め 4 人で参加しました。

6. 委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長



名札が見易くなるよ
う改良をしました。名札
は自宅等に持ち帰らな
いようにしてください。

例会は会長の意を汲
んで楽しくやりたい。資料を配布する場合、例会

1週間前が望ましいが、緊急なものは塩澤幹事に渡してください。欠席する場合は当日9時30分までに連絡をしてください。

(2) 情報委員会 寺田委員長



情報委員会の活動方針は3つあります。第1は「プロバスだより」の編集・発行で、会員に読まれる、親しみやすい「プロバスだより」を目指す事と、パソコン初心者でも編集できる「マニュアル」作りを目指します。第2はホームページ（HP）の維持管理で、昨年のアンケート結果に基づき作成した「HPのあるべき姿」を基に、新しいHP作成を目指す事と、HPの掲載基準作りと変更ルールを明確化します。第3は生涯学習サロンの抄録編集・発行ですが、既存路線を踏襲します。これらを情報委員会メンバー間で分担・連携をし、チームワークで遂行します。

お願い事項として会長・副会長等の挨拶・報告、ハッピーコイン、卓話等800字を超えるものは、原稿を情報委員長に提出してください。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長



会員委員会の活動方針は大きく2つあり、1つ目は、クラブの発展に相応しい人材の確保で、現状の会員平均年齢を若返らす60歳代の幅広い会員の発掘と、70名台の会身体制の維持、及び入会基準の明確化と推薦手続の前段階における、準備手順を明確化してゆきたい。2つ目は、会員同士の親睦・交流活性化の環境づくりで、特に新しく会員になった会員の孤立しないような交流の場を設ける等アイデアを頂戴しながら検討したい。

新しい会員名簿を作成配布したので、間違いがあれば申し出てください。

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長



研修委員会の大きな仕事は、卓話と講師派遣です。出前講師は前年度に名簿を完成させたので、近隣のPCと交流を図りながら、無理なく進めたい。卓話は楽しくやりたいが、時間配分について事前摺合せが十分でなく、話し手に戸惑いを与えていた事を改善したい。野外研修では学術的で大衆的でもあるような候補場所選定が悩みで、アイデアを頂戴したい。同好会で他の会に出席したいが、重複して断念するケースがあるので、各同好会の年間スケジュールを提出して頂き、重なりが無くなるようにして行きたい。

(5) 地域奉仕委員会 橋本綱二委員長



地域奉仕委員会の活動方針は、大きく分けて2つあり、最も重要な生涯学習サロンと、その他の奉仕活動です。生涯学習サロンでは、開校式、閉講式の特別講話のテーマと講師の選定が、サロン一般会員の参加者確保に重要で、講師の選定には、人脈の活用、地域人材の発掘が不可欠で、多くの会員の協力を得て情報収集し、計画を推進したい。講座数は前回同様3週×4テーマで計12テーマとする。又一般講座の話し手は、PC会員が主体で、前年度に作成した「出前講師」を参考にしたい。

その他の地域奉仕活動では、「いちよう祭り」他、地域の行事には従来ベースで参画してゆく。

学習サロンのアンケートを配布したので次の例会時に回収します。

(6) 交流担当 浅川理事



平成19年度に第1回関東地区交流会、平成20年度に第2回を開いたが、何れも八王子PCが十分アピール出

来なかった為か、参加者も少なく立ち消えになった。そこで昨年東京、千葉、埼玉の3つに絞って第1回関東中央ブロックを開催したが、多くの会員が集まった。これを今後進めてゆきたい。今年が多摩PCがホストとなって開催する。お互いの親睦を図り、例会、同好会等を通して活性化してゆきたい。多摩、日野、八王子の近隣PC間で、卓話等を通して交流を深めたい。少子高齢化の時代、PCの皆様が元気に活動をすれば、現役世代の負担軽減につながるだろう。

(7)「宇宙の学校」報告 澤渡事務局長



配布した「支援の会」のお願いがあります。支援の会は、財政面の支援、即ち後援会への入会で、昨年以上の申し込み登録をお願いしたい。集金は8月、9月の例会時に集めますので宜しく。もう一つの労力面での協力ですが、運営本部員として、運営に関わって頂きたいというお願いです。本年度は会場を本部会場と、都立桑志高校の2会場に増やし、参加者も50%増の120組親子240名を予定しています。昨年度宣伝不足で、多くの会員の皆様にお越し頂けませんでした。現場で子供達の元気のよい姿を是非見て頂きたいと思います。

8. 同好会報告

ゴルフ同好会：米林会員



新年度第1回目のゴルフコンペを9月20日(木)相武CCで実施します。今回は少し安くなっていますので、同好会以外の方も奮って参加してください。8月の例会で閉め切りますので、それまでに米林まで申し込みください。

歴史の会：土井俊雄会員

先週相模原博物館、JAXA(宇宙航空研究開発機構)等、17名が参加し、訪問してきた。天

候もよく楽しい1日を過ごせた。

美術鑑賞の会、お茶の会、旅行クラブ、写真の会、囲碁の会、麻雀クラブ、俳句の会何れも報告なし。

9. その他

吉田会長

先月会員はどこかの委員会に属するのはいかとの質問を頂いたが、「宇宙の学校」等は3役あるいは委員会と同格とみなしているの了解をしてください。

立川会員



11月神戸で行われる全日本プロバスケットボールの総会へ参加する16名の方に、手紙を配布しましたが、総会費は別枠になるので、来月集金します。

廣瀬会員

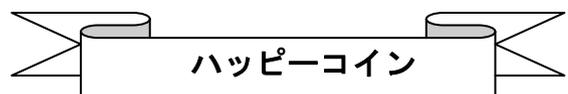


世界連邦平和都市宣言35年記念と、八王子が戦火に遭った事を子供たちに伝えようと云うことで、8月2日～6日迄東急スクエアビルで「平和展」が開催されます。八王子祭り重なってしまいましたが、是非お立ち寄りください。

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 荒副会長

吉田会長から「青春をたぎらせよう」とありましたが、余りやりすぎて血圧を上げないように注意しましょう。



◆健康にも恵まれ、目出度く喜寿を迎えることが

出来ました。私の誕生日はアメリカ合衆国の全ての人が祝ってくれる有難い日です（7月4日）。

感謝。 岩島 寛

◆七夕の日が誕生日です。ようやく2捨3入でプロバス平均年齢に達しました。乾杯。 澤渡 進

◆七夕の日喜寿を迎えた。子供や孫達から沢山の贈り物、花束、7人の孫達から懐かしい便りを貰った。涙あふれ長い命に感謝。 濱野幸雄

◆七夕の日、77歳の誕生日を祝った。皆元気に集まった「ありがとう」。 濱野幸雄

◆財布を忘れました小銭だけありました。利息分を前納します。 大野聖二

◆1つ年を取るのではなく位が上がったと思って、又1年生かされる喜びに感謝。 浅川文夫

◆今年は蛍が沢山見られました。自然環境が戻りつつある証だと思います。

「星空とまたたき交はず蛍かな」 河合和郎

◆孫の所属する高校の合唱部の有志と、卒業生のメンバーがオーストリアで開かれた49回世界合唱コンクールに出場「民族音楽部門」と「課題曲自由曲部門」で共に3位に入賞。総合2位に入賞しました。 高取和郎

◆シルクロードを旅してきました。大地の広さとトルファンでの摂氏45度と云う高温も体験してきました。 内山雅之

◆今月ベトナム縦断の旅に行ってきました。今まで、ベトナムはホーチミンとハノイだけでしたので、新たなる世界遺産に接し良かったです。

野口浩平

◆昨夜サッカーの国際親善試合で「なでしこジャパン」快勝、男子はドロー。ロンドンオリンピックで金メダルを期待！！ 飯田富美子

◆「来年6月23日、東京文化会館」に決定しました。わが恩師「柴田睦陸」先生の生誕100周年記念演奏会が実施されます。補足/藤原義江に次ぐ日本のオペラ運動の主導者は柴田睦陸と評されています。 山形忠顕

◆このたび例会委員長に就任しました。会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

飯田富美子

◆「八王子宇宙の学校」レポートのホームページ掲載を祝す。 荒 正勝

◆「宇宙の学校」今年度2会場成立の見通しが立って安心しました。 下山邦夫

◆吉田丸の船出を祝して！！ 杉山友一

◆吉田会長はじめ執行部の皆様のご活躍を祈ります。 澤渡 進

◆今年1年、楽しく任務を全うできることを願って。 吉田信夫



お茶の会 飯田の桜を見る旅

高取和郎



昨年暮、お茶の会の例会日に、数年前に出かけた飯田にある増泉寺の桜を見に行こうという事になった。前は、近藤会員が住職をされていた増泉寺のしだれ桜が見事に咲いていて素晴らしいお花見を堪能してきたので、再度、この花を見に行こうという事で計画をした。

いよいよ、旅の当日4月6日（金）の朝、全員時間通りに集合、バスで八王子を出発、3月にできたばかりの高尾山ICから中央道を西に向かった。バスの中では、山形会員のピアニカの演奏に合わせて全員で楽しい歌を合唱している内に、勝沼に入ってしまった。今年の春は寒さが長引き、桜の開花は1週間ほど遅れている。八王子ではようやく開き始めたところ、目的の飯田の桜は、まるっきり咲いていないとの情報であった。そこで、急遽、勝沼で一旦高速道を降り、桃の花を見に行



ハウス内の桃

こういう事になった。降りては見たが、桃の花はどこにも咲いていない。取り敢えずブドウ園のドライブインに入ってみると、寒さが続いているため、桃の花は咲いていないが、ハウスの中の桃は満開とのこと、早速ハウスに向かうと10本ほどの桃の木は満開の花をつけていた。

中央道に戻り、飯田の町に入った。飯田市内の開花した桜は全く見えないので、増泉寺には向かわず、元善光寺へ向かい、寺の宝物を拝見した。元善光寺の縁起によれば、推古天皇 10 年に信州麻績の里（現在の飯田市座光寺）の住人、本多善光公が、難波の堀から本尊を迎えたのが起源で、その後、本尊は長野市へ遷座され、出来たお寺を善光寺と命名した。それから飯田の寺を元善光寺という。このため、両方の寺をお詣りしなければ、片詣りと昔からいわれているとのこと。

続いて、飯田市美術博物館に向かう。美術館の庭には樹齢 400 年を超すエドヒガンの安富桜の名を持つ大木があるが、やはり咲いていない。このしだれ桜が満開になればきっと見栄えのある事だろう。飯田市美術博物館の展示は飯田市で生まれた「菱田春草」を中心とした日本画の展示があり、明治時代に活躍した横山大観、下村観山などの絵が展示してある。午前中は快晴であったが、午後は変わりやすい天気、美術博物館を出るときには雪が降り出したため、「天竜くんだり」でもと思ったが、このまま、今日の宿の昼神温泉、昼神グランドホテル「天心」へ向かう。宿ではゆったりと入浴を楽しみ、続いて宴会もカラオケで大いに盛り上がった。



昼神温泉「天心」出発



妻籠宿を散策

歩いてきた街道沿いには、江戸時代の街並みが保存され タイムスリップをしたような感覚にとら

われる。名物の栗きんとんとお茶や五平餅を楽しんでゆっくりと散策した。

続いてレストラン木曾路から、浦島太郎伝説のある「寝覚めの床」は、不思議な岩床の景観が広がっている。次に奈良井宿へ向かう。宿場の入り口にかかる「木曾の大橋」を渡り、奈良井の宿場に入る。そこから京都側に向かい、奈良井川に沿って 1 km 程にわたって街並みがある。日本最長の宿場とのこと。街道に沿って歩くと漆器屋、お茶屋、酒造会社などが軒を連ねていて、昭和 53 年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。宿場の途中にあり、以前テレビで紹介された店「こころ音」で昼食をとる。暖簾をわけて入ると囲炉裏があり、普通の民家の部屋にテーブルを置いた入りやすい店である。蕎麦は玄そばを使い、やや黒味で腰のある美味しい蕎麦で、それに五平餅が付いてくる。ここの五平餅は高山の小判型でなく、丸い饅頭形で串に刺してある。宿場の京都側の端で、鳥居峠の入り口にある鎮神社が小高い所に鎮座している。この神社は宿場の入り口にも当たり、村を守る場所にもなっている、近くには宿場の水飲み場となる水場が保存されている。

帰りは、奈良井宿を後に中央道に入り、途中の諏訪のドライブインで、お土産の「峠の釜めし」を求めて、お茶の会の和気あいあいのバス旅行が終了した。

諏訪湖周辺の美術館へ(美術鑑賞会報告)

佐々木 正



野の道を歩き、ふるさとを描く原田泰治の作品と、刊本作家、童画家と版画家の三つの顔を持つ武井武雄の作品を収蔵する、長野県諏訪湖周辺に所在する二つの美術館が今回の美術鑑賞の目的地だ。

参加メンバーは、プロバスクラブ会員 10 名と、サロン参加者など地域の同好の方々 7 名の 17 名。

午前中の原田泰治美術館では、はじめに企画展の「とうちゃんのとんネル」原画展をみる。泰治が終戦間近の 4 歳から 10 年間に過ごした疎開先の超傾斜地で初めての農業に携わった父親が、田

んぼの水を得るため 2 年もの歳月をかけてトンネルを掘り、ついに棚田を作って米作りに成功する苦難の道を、子供に伝えるための連作が感動的に描かれている。常設展は、「真夏の午後」などの新作、朝日新聞日曜版に掲載され、多くの愛好家がいた「日本のふるさと」シリーズ、郵便切手に採用された原画など、彼がくまなく足を伸ばした日本の田舎に加えて、旧ユーゴスラビアや、ニューヨークをはじめ外国の町並みなど多彩な作品が並ぶ。

原田泰治の特徴として学芸員から説明を受けた「顔に目鼻を描かず、見る人自身の思いのままに任せる」「鳥の目で景観全体をとらえる」「虫の目で事象を丁寧に観察する」の 3 点と泰治自身の言葉である「最初に背景となる空の色を決めて、全体にその色を塗ることを根幹として最後まで仕上げる」といったことを頭に入れて、全体の展示作品を見ると、すべての作品に共通する見方として理解でき、長い間にわたって、日本の自然や失われかけている古い町並みを描き続けている作家の姿にあらためて感動した次第。

諏訪湖名産のウナギの昼食を楽しみ、午後は、武井武雄の作品が収められているイルフ童画館での鑑賞だ。今日の最大の特徴は、童画、版画をはじめとする武井の多彩かつ多才な常設展示作品を見終わった後に、武井の制作した刊本を実際に手にして鑑賞できること。美術館ではふつう、ガラス張りの作品でも、ある線からちょっと近づいただけで、見張っている職員から厳しく注意されてしまうのに、本物を手にして鑑賞してよいと



武井武雄の刊本の前で いうことに驚いたり、感激したりは参加者多くの感想だ。さて、今日の本題の刊本だが、通常の本にくらべて小ぶりの刊本の制作の動機は、芸術作品といわれるものは、絵画、彫刻、建築など幅広く存在するが、本の芸術というジャンルはない。自らがそれに挑戦するという動機から始めたとのことだ。本の表紙、各ページの絵柄、使用する材質等すべてにわたって作家が魂を込

めて命がけで制作した気迫が、手にしたすべての作品から伝わってくる。本の最高の芸術家といわれる所以がここにある。一つ一つ発想が異なる 139 の作品のうちから 20 点余を見せていただいたが、学芸員さんから興味ある作品として紹介していただいた友禅染め、螺鈿、ストローモザイク、寄せ木はじめ工芸による作品はだれも考えもしない発想で作られていることを実感した。それと、武井を尊敬してやまない学芸員さんのわかりやすい、丁寧な説明にも心打たれたことを付言しておこう。武井の作品は 300 部に限定されて、親類と呼ばれるメンバーに配布されたが、配布の順番を待つスタンバイ者が 500 人もいた（我慢会と呼んでいたとのこと）という。

最後に、今回の美術鑑賞会は、プロバス会員のほかに地域の同好の方々に参加していただいたことを、今後の同好会運営の好事例としてとらえられる一日であったことをご報告するとともに、事前の準備をはじめ、すべてにわたって行き届いた心配りをしていただいた池田さんほか関係者に感謝を申し上げます。

旅の思い出

土井俊雄



先日、普段使わない書棚の引き出しの中に、1936 年、フランクフルト国際図書展及び出版界視察団（9 月 25 日～11 月 5 日）という、表紙が変色し、しみの付いたリーフレットが出てきた。懐かしくて、ページをめくっているうちに、いろいろなことが思い出されてきた。

大学を卒業した昭和 35 年、神田にある教科書の出版社“帝国書院”に入社した。ここでは、小・中・高の地図帳や、中・高の活字教科書（社会科数学など）を出版していた。地図帳は小・中・高共に当社の独占状況にあり、公取の目が光っている状況だった。当時から、出版文化国際交流会と云う団体があり、出版社間の親睦や、国際間の出版物の版權売買や、優れた出版物の探索等を行っていた。一般の出版社や教科書出版社で構成され

たこの団体は、毎年フランクフルトで開催される“国際図書展（ブッフメッセ）”に参加していたが、昭和38年たまたま、社命で私を含む3名の社員が参加することになった。当時ヨーロッパに行く場合、ソ連の上空を飛ばず、アラスカにいったん着陸し、給油の後飛ぶという莫大な時間と燃費のロスがあった。

戦後復興期にあった当時、為替は1ドル360円、海外持ち出しできる額は、確か20万円位だったように記憶している。ともあれフランクフルトに1日展示員として参加し、西欧12か国とアメリカ主要都市6か所の出版社、及び印刷所の見学を行うことになった。一行は29名の団体で、団長に講談社の野間省一社長、副団長に岩波書店取締役の長村忠氏と、出版文化国際交流会専務理事の中島正一氏だった。印象に残った事を、かいつまんで記述してみます。

フランクフルト到着の晩に市内のホテルで、大使館主催の歓迎レセプションが行われ、ドイツ大使が、日本とドイツは世界大戦に負けた。しかもドイツは2度の戦いで負けた。にもかかわらず日本とドイツは短期間で復興を成し遂げ、世界のリーダーとして再度活躍するだろう。（その時の雰囲気と言わせたと思うが）大使の言葉で、もしまた国際連合による戦後処理が悪い場合は、ドイツ国民は再度立ち上がって戦うであろうと…。大きな拍手が沸き起こった。またハイデルベルグの大手印刷会社（オリジナル・ハイデルベルク社）を訪問した時、工場内をウォークマンのような機器を担いで、同時通訳で説明を受けた。昭和38年にこのようなことが出来るドイツに驚いた。印刷機を世界に先駆け発明したドイツですから当然と云えば当然かもしれませんが、当時輪転印刷機のことをハイデルと呼び、世界中で重用されていたようだ。また日本では建設されていない高速道路のアウトバーンを、高速道路で移動する時の爽快感は格別だった。もっともこの道路は軍用に作られたようだ。

東西冷戦下、アメリカ、イギリス、フランスの占領地以外に、ソ連が分断国家として東ドイツの中にベルリンを、4か国共同管理地にしていた。ソ連下の飢えた東ドイツ国民に、食料を空輸する

という事態があり、緊迫していた。それぞれの国が統治する国境付近にある検問所で、警備兵の物々しさは今でも恐怖感を伴い目に浮かんでくる。

イギリスでは、オックスフォード・ユニバースティプレスと云う会社（出版と印刷をやっている）を訪問した。印刷工場で働いている女子工員全員の背丈が、管理者のイギリス人より格段に小さいことに気づきました。ホテルに帰って、二人の添乗員のうちイギリスに詳しい方に聞いてみたら、イギリスは階級・格差にうるさく、女工さんはケルト族の子孫と思われると聞いて驚いた。ケルト族は、アングロサクソン族に比べ、体格が小さいといわれている。イギリスが植民地とした国は例外なく隔離政策を打ち出し、ラテン系ヨーロッパの同化政策とは異なった統治形態をとっていたようだ。その社会の一部を垣間見た思いである。

バチカン市国を訪れた時の事、ローマ法王の座が空位になっており（ヨハネ23世がなくなり）全世界の枢機卿による教皇選挙が行われており、コンクラーヴェという儀式（選挙の結果を煙突から出る煙により判断する）が行われていた。めったにないことに遭遇して驚いた。日本からの枢機卿土井氏にもお目にかかる事ができた。

日本でカラー印刷技術（今では世界で上位にある）が未熟だった頃、スイスのスキラ社の美術出版物や、フランスのアシェット社による婦人画報等は群を抜いて優れていた。

ヨーロッパの主要都市のナイトツアーは、一見しておく価値ありと云われていたので、ホテル間を巡回するマイクロバスに乗り、パリではムランルージュとかフォーリーベルジュール、マドリッドではフラメンコダンス、ウイーンではオペラとか、皆勤賞をもらう程精を出し、羽田では迎いの父に金を無心する始末だった。

リスボンから大西洋を越え、ニューヨークについてびっくりしたのは、街のあちこちより湯気が立ち上がり、暖房用の湯が、管で各ビル群に廻っていると聞き、進んでいるなあと感じた。市内のランド・マクナリーとかマグローヒル（世界有数の地図出版社）と云う出版社を訪れた時、世界中

に張り巡らした多種類の媒体手段、とりわけ通信網の普及状況に驚かされた。未だヨーロッパではこのような大規模なコミュニケーション手段が普及していない状況だった。

最後にヨーロッパとアメリカの当時の感想だが、アメリカは“動”、ヨーロッパは“静”という印象だった。ニューヨークの摩天楼を見ても、バチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂の伽藍に比較すれば、その雄大さは何ほどでもないと感じた。

いまや技術立国である日本は、物づくりで世界をリードしているが、グローバルに世界を引っ張っていく政治・外交・金融等これからの課題は多いと思われる。断片的な話で恐縮ですが、あの当時世界各国は、戦後復興で大変な時期だった。それを直に多少なり見学出来たことは、良かったと率直に思っている。

お茶同好会と茶道豆知識 (3)

矢崎 安弘

1. 宗徧流(そうへんりゅう)

当同好会で教えていただいている流派は「宗徧流」なので、これの歴史的背景を調べたので、茲許付記する。



千利休の孫、千宗旦(せんのそうたん)の高弟、山田宗徧(そうへん)(1627~1708)を開祖として江戸初期に成立した。宗旦流を本とする侘茶(わびちゃ)であるが、宗徧が三河吉田藩(愛知県豊橋市)小笠原家の御茶頭(おさどう)を勤めていた関係で、宗旦流が隠者風の好みであるのに比べて、宗徧流は武家風の力強さが加味されている。宗徧の子孫がその流儀と茶風を世襲し、現在、十一世山田宗徧に至る。大阪市、新潟県長岡市、愛知県豊橋市などのほか、開祖の山田宗徧が晩年江戸に下向して町人たちに茶道を伝授した関係で、現在、東京方面にも広まっている。宗徧の茶号は四方庵、不審庵(ふしんあん)、今日庵(こんにちあん)。宗徧は寛永4年(1627)生まれ。明暦元年(1655)、28歳で三河吉田藩初代藩主・小笠原忠知(ただとも)に仕官して以来、4代の藩主に仕え、吉田(豊橋市)に42年間在住していた。第4代藩主・小笠原長重

が老中に就任し、武州岩城に転封されたのを機に、後事を二世・宗員に託して江戸に出た。宗徧が江戸に出て本所二つ目に庵を結んだのは、元禄10年(1697)、70歳の時である。徳川綱吉が柳沢吉保に上野寛永寺の根本中堂の造営を命じ、木材調達を請け負った紀伊国屋文左衛門が莫大な利益を得た時である。また、幕府は貨幣の金銀含有量を減らして貨幣の流通量を増やす、貨幣改鑄政策を実施し、幕府への収入増加と好景気をもたらした。

宗徧は、幼くして遠州流の茶を学び、長じて千宗旦のもとで修行を積み皆伝を受け、吉田時代に「茶道便蒙抄」、「茶道要録」といった書を発行してきた。宗徧の啓蒙的な性格と、長年にわたる「茶頭」としての実力は、江戸でたちまち注目されることとなった。江戸市中に宗徧の茶は受け入れられ、「歌は河東(かとう)に茶は宗徧」と歌われた。

2. 宗徧と赤穂義士の討ち入り

元禄14年(1701)3月14日、江戸城松の廊下で、播磨国赤穂藩主・浅野内匠頭長矩(ながのり)が、吉良上野介義央(よしなか)に切りつける事件が起こる。浅野家は改易、内匠頭は切腹となるが吉良の処分は無かった。浅野家筆頭家老・大石内蔵助良雄は、浅野家の再興を図るがその望みがなくなった。幕府の判断は喧嘩両成敗の原則に反すると、翌年、元禄15年(1702)12月14日、大石率いる47名の赤穂義士が吉良邸に討ち入り、上野介を討ち果たし主君の無念を晴らした。

この四十七士の討ち入りと宗徧にまつわるエピソードが伝えられている。宗徧が吉良邸に出入りしているのを知った赤穂浪士・大高源吾は、呉服商人・脇屋新兵衛と称して、宗徧に入門。12月14日に吉良邸で茶会があることを教えてもらい、その日の夜半に討ち入ることを決めたとされる。また、茶事では、宗徧は銅鑼に換えて琵琶を演奏し、赤穂浪士はその音に耳を傾け、夜明けを待ったと伝えられている。その時、宗徧は75歳。6年後の宝永5年(1708)4月2日、81歳でこの世を去った。

3. 茶道の流派

三千家のうち、**表千家**は利休の孫、千宗旦が利

休相伝の茶室不審庵を本とする茶法を三男の江岑齋宗左江岑齋宗左（こうしんさいそうさ）に伝えたもの。**裏千家**は、宗旦が不審庵の裏手に隠居用の茶室として今日案を建て、それを四男の仙叟宗室（せんそうそうしつ）に伝えたもの。

武者小路千家は、宗旦の次男一翁宗守（いちおうそうしゅ）が讃岐高松藩松平家の御茶頭をやめ京都に帰り、武者小路に茶室官休庵（かんきゅうあん）を建てたことに由来する。

そのほか、利休流茶道の傍系には、利休の高弟織田**有楽斎（うらくさい）**を祖とする有楽流、利休の弟子金森可重（ありしげ）の子宗和（そうわ）が創めた**宗和流**、利休の高弟細川三斎を祖とする**三斎流**、同じく高弟古田織部（おりべ）の創めた**織部流**などがあり、さらに織部の高弟小堀遠州の開いた**遠州流**、利休の長男道安（どうあん）の流れを汲む片桐石舟（せきしゅう）の創めた**石舟流**、千宗旦の開いた宗旦流侘茶の流れを汲む高弟藤村庸軒（ようけん）の**庸軒流**、同じく山田宗偏の**宗偏流**、松尾宗二（そうじ）の**松尾流**、表千家から分かれた**久田流・堀内流（ほりのうちりゅう）**、表千家流を江戸に広めた川上不白（ふはく）を祖とする**江戸千家流・表千家不白流**。裏千家流から独立して大日本茶道学会を創めた田中仙樵（せんしょう）を祖とする**茶同学会流**などがある。また、**藪内家**は、剣仲紹智（？～1627）以来の名門で、千家系とも武家茶系とも異なる一方の権威である。

お茶をやっているお陰で、お茶に関する新聞報道が目に入った。前述の有楽（うらく）流宗家17代目家元の襲名の件が、一昨年（2010年4月）新聞で報道され、逸話が披露された。この流派の茶席では桔梗の花を飾らないのは、「敵の花」だからだそう。創始者・織田有楽斎（うらくさい）の兄・信長を本能寺で討ち取った明智光秀の家紋の花であるからである。有楽流は、1万石の大和芝村藩主となった有楽斎の四男・長政に引き継がれ、代々の藩主に伝えられた。

尾張徳川家にも伝承されている。武家茶道らしく帯刀するため、袱紗は帯の右側とするなど、他派とは異なる作法も多い。（おわり）

俳句同好会便り

（7月の句会から）

俳句同好会が発足したのは昨年の12月。7月で早くも7回の句会が開かれた。7名の参加により、当初は手探りの状態でのスタートであったが、毎回3時間を超える句会を重ねて急速に進歩。最近はそれぞれに個性的な作品が出句されている。

そんな同好会の活動を、各メンバーの自選句を発表することによって、会員の皆様に知っていただくこと、毎月の句会から「私の一句」を掲載することとした。

7月の兼題（課題の季語）は[風鈴]なので、風鈴の句が多い。句評は、まとめ役の河合和郎会員が担当。（掲載の順序は不同）

「風鈴の音にうたた寝の昼下がり」 東山 榮
作者の「悠々自適の毎日」が伝わってくるような一句。何ともうらやましい限り。句としても良くまとまっている。

「背伸びして風鈴つるす白き腕」 田中 信昭
作者の田中さんは今回が初参加。俳句は初めてとのこと。それにしても上手すぎる。上品な艶のある作品。有力メンバーに期待大。

「風鈴の音色かるやか朝支度」 馬場 征彦
さりげない日常生活の一コマを読んで爽快な一句。朝の前向きでさわやかな気分が「音色かるやか」で、良く表現されている。

「八ヶ岳入道雲のお化けめき」 飯田 富美子
真っ白な入道雲が八ヶ岳にかかっている。千変万化の雲の造形を時に「お化けのようだ」と視察している。ユーモラスでスケールの大きな句。

「風鈴のそよ風誘ふ宵の庭」 阿部 治子
少女のような感性。作者のように心はいつまでも瑞々しくありたいもの。「風鈴が風を誘う」という逆転の発想がこの句のポイント。

「清流に映る青空鬼やんま」 山形 忠顕
素晴らしい作品。今回の句会の最高得点句。さわやかな秋の景色が浮かんでくる。実景をそのまま俳句にしているが、実はこれが一番難しい。

「馬鹿になる茗荷を刻み冷奴」 渋谷 文雄
独り言を言いながら茗荷を刻む作者の姿が目には浮かぶ。俳句の諧謔性とはこういう世界。茗荷を食べると「物忘れ」をすとも…ご用心を。

「江ノ電や軒の風鈴鳴らしゆく」 河合 和郎
人家を分けるようにして走っている江ノ電。風鈴の兼題に対して、直ぐにこの風景が浮かんだ。

200号 記念寄稿の続き

思い出に包まれて

古川 純香



原稿依頼から大分日が流れた。プロバス設立の折の最初のメンバーとして何か書いては、との事である。エッ！私が…と絶句する。とても偉そうに書けるものは何もない…。

15年余目立った活動もせず、ただ会員の一人として参加していただけなので…。そもそも設立当時、大野聖二様からのおすすめで軽い気持ちで入会しました。誘いの理由は、都心から引っ越して未だ八王子に慣れずにいる私に、もう少しこの地に馴染んだら、との温かいお言葉に、すぐ「はい」と承諾する。熟慮せず答えを出してしまい、ハテどうしようかなといつも不安になる。これが少女時代からの私の弱点である。後日、くよくよする性質（たち）でもある。

その頃60歳の若かりし頃？で、私はお茶の流派を持っていた。小さくはあるが、初代で組織も活発に活動し、時代が、芸道活動に適していたのでしょうか、会員も増えてきました。茶道に加え主婦業もあり、スケジュールびっしりで、初めの頃は木曜のプロバス例会に欠席が多く、肩身の狭い思いもしました。

プロバスは定年になり第一線の仕事から解放された人々の老後の集い…の会の主旨に少しレールが外れておりましたが、皆様のおおらかな御理解のもとに、甘えさせて頂き、ここまで御一緒出来ました。

私にとってストレスの多い一つの世界から、橋を渡って、このプロバスの世界に来て、今風の言

葉では、心が楽になる癒しの世界でした。褒められもせず、苛められもしないぬるま湯に浸かって、快、不快のめりはりも多くなり、参加させて頂いた会でした。こんな風ですので、会員の勧誘はせめてもの御奉公と思ひ、何人かふさわしい方、女性をターゲットにアタックしたのですが、力不足で残念でした。プロバスはマイルドな味ですが、ピリッとした辛みもある会だということが十分伝えられず、加えて、「何のメリットがあるの？」などと問われると力強く言い切れず残念でした。少しは頑張ったつもりですが…。

でも15年の重み、それは毎月の例会、会食を共にし、淡々とテーブルをはさんで、毎回となりの方は変わりますが、気張らず、黙々としていても許される雰囲気…。思い出を一人一人がお持ち、しかしプロバスへの思い。そして年々歳々人同じからず…で、過ぎ去って行った人々への懐かしさ…。プロバスソングを共に歌い、その歌声に共有できる思い出があるという事、歌唱力だけは、以前より上がった事、これも繰り返しの重さでしょうか。渋々のペンの先が、思い出の様々な映像に包まれて、もっと書きたくなったところで終わりとなります。そしてもう一つ。学習サロン、野外研修…、これも毎年繰り返す馴染みの行事。しかしその中に新鮮な体験の数々、繰り返しの中に新しさがある。皆様に感謝しつつ。

プロバスだより 200号発刊に寄せて

小林 貞男



プロバスクラブが発足して16年。会員も30数名から70名を超えるクラブとして発展を続けています。

この間クラブの情報機関紙として、「プロバスだより」が続けられ、本年7月で200号に到達しました。発行を担当した情報委員会の皆様方には、ご苦勞が多かったことと思ひ、御礼申し上げます。

「プロバスだより」は、機関誌として内容が詳細に掲載され、他クラブの活動に大きく役立っているものと確信しています。又個人的にも私の活

動の一助としています。出来れば近隣のクラブ活動情報等、掲載して頂けると大いに参考になると思います。

プロバスクラブ(PC)に入会したきっかけは、平成7年7月末で定年退職となり、定年後の日常生活について考えていた時期に、知人からPCと云う任意の団体が、社会奉仕を目的に、発足の準備を進めているので、入会したらどうかと誘いを受けました。

40年間の会社生活は、会社一筋で地域との繋がりは全くなく、従って地域に対する貢献もないので、PC入会はよい機会であり、少しでもお手伝いが出来ればと思い、準備中の実行委員会に参加しました。しかし30数名の会員の方々の、顔・名前が分からず、ましてや個人個人の職歴や性格など分かるはずがありません。

PCは平成7年10月に発足しましたが、私はただ例会に参加するだけで、PCに対する魅力も湧かず、2~3年はついてゆくのみで、交流の場もあまり活用出来ませんでした。本音はいつ退会届を提出するかを考えていました。しかしPCの本来の目的を達成するには、PCをもっと活性化する必要性を、多くの会員の方々が感じており、同好会(趣味の会)を立ち上げることになった。

私も同好会の一つであるゴルフ同好会に参加することにしました。下手なゴルフですが、コンペに参加した方々は、同じ趣味であり、コースを回りボールを追っているうちに、苦勞することなく自然に交流が出来、1日を楽しく過ごすことが出来ました。その後何回かコンペに参加して、名前と顔が一致するようになって交流も出来、ようやくPCの一員として自信を持てるような気がして、今日まで続けることが出来ました。

発足から16年間PCの一員として活動して、胸を張って報告出来るものはありませんが、あえて1点だけ述べてみます。平成14年のサロン開催(2月~5月)で、参加された一般会員に、アンケート(回答項目は約20項目)をお願いしました。数ある質問の1つに、PCに入会の希望がありますか?という項目があり、10名の方々から入会したいと回答がありました。結果の取りまとめを、前年度の幹事会から引き継いだ新幹事会

(会長長町先生)に、取り扱いを一任され、協議することになりました。多くの意見が出されましたが、結論を得るには至りません。大勢の意見は、しばらく様子を見てから結論を出すという事であった。しかしアンケートに回答された方々は、真面目にそして真剣に回答されていると思ったので、結論を先延ばしにして、適当な処理で終わらせることになれば、PCの信頼は崩壊してしまうし、サロンの参加者も減少するであろうことは明らかであり、クラブにとって大きなマイナス点を残すことになる。2時間余りの激論の後、会員委員会が責任を持って、個々に入会希望者の自宅を訪問し、確認するという結論になった。

後日加藤副委員長と二人で、5名の方々を訪問し、再確認の後、理事会で承認を得て、入会されました。その内3名の方は、私が紹介人となった。残り5名の方々については、特に仕事の都合などがあり、本人の希望で暫く様子を見て結論を出すということになった。

最近会員相互の交流の重要性が叫ばれていますが、交流に加え、相互の信頼度を高めることが、すべての出発点であると思います。

これからも健康に留意しつつ、会員の方々の迷惑にならないよう、頑張っていきたいと思います。

編集後記

投稿文を沢山頂戴しましたので、「プロバスだより」が厚くなり、読み応えのあるものになりました。アツイといえば今年の夏は酷暑になりそうで、暑がりな汗かきの私には、服装はクールビズでは不足で、コールドビズにしたい位です。皆様も飲み物をしっかりとって、熱中症にならないように健康に留意してお過ごし下さい。(寺田 昌章)